

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	国語					授業形態		講義		
科目コード	750080	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								ICT活用	○
授業概要	本授業の目的は、小学校国語科の教科内容について理解・習得することである。小学校国語科では、子どもたちの日常的な言語生活に根ざしながら、国語力を育成していくことが求められる。本授業では、国語力を「基盤的言語力」「文脈的言語力」「主体的関与」の三要素から捉え、それぞれの要素がどのように教科内容と結び付いているかを検討する。 具体的には、「知識及び技能」に関わる内容（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を中心に学び、それらが児童の思考・判断・表現をどのように支えるのかを、言語活動との関係から理解する。また、各内容が言語活動の中でどのように活用されるかを考察することを通して、子どもが言語活動を通して知識を活用し、理解や表現に至るまでの過程を把握する視点を養う。これにより、教科内容の理解を基盤としつつ、言語活動を通じた学習の重要性について総合的に理解することを目指す。									
関連する科目	事前に「文章表現の基礎」を受講しておくことが望ましい。 履修後に「教科教育指導法（国語）」を受講することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	本授業は、演習形式で実施し、「知識及び技能」の理解を基盤に、「思考力・判断力・表現力等」および学習への態度の育成へと接続する構成とする。1回の授業は、主に以下の流れで進める。 1. 前半（講義・教材分析） 各回のテーマに基づき、講義および教材文の分析を行う。言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する基礎的内容を扱い、「知識・理解の獲得および確認」を行うとともに、それらが言語活動の中でどのように働くかを意識づける。 2. 後半（演習・協働的学習） グループディスカッションや課題に取り組み、前半で扱った知識をもとに、言語活動との関連や児童の学びの過程について検討する。ここでは、「知識及び技能」の活用を通して、「思考力・判断力・表現力等」および汎用的技能の育成を図る。									
授業計画 【第1回】	第1回 オリエンテーション ・授業の目的・方法・評価の理解、「学習の記録」の位置付けの確認 ・本科目で扱う学びの内容を構造的に整理し、以降の学修の見通しをもつ									
授業計画 【第2回】	第2回 国語力とは何か ① 国語力の三要素（基盤的言語力・文脈的言語力・主体的関与）を理解する ② 言語生活と言語活動の関係を考える									
授業計画 【第3回】	第3回 国語科の目標と学習指導要領 ③ 国語科の目標と内容構成を理解する ④ 資質・能力（知識及び技能／思考・判断・表現）の関係を理解する									
授業計画 【第4回】	第4回 文字を書くこと（書写・書字） ⑤ 書字フォーム・筆順の原理を理解する ⑥ 書く技能が思考・表現を支えることを理解する									
授業計画 【第5回】	第5回 文字と表記 ⑦ 日本語の表記体系（仮名・漢字等）を理解する ⑧ 表記の理解が読み書きの正確さに与える影響を考える									
授業計画 【第6回】	第6回 語彙（1）：語の構造 ⑨ 語種（和語・漢語・外来語）を理解する ⑩ 語彙知識が意味理解を支える仕組みを考える									
授業計画 【第7回】	第7回 語彙（2）：語の意味と指導 ⑪ 語の意味とイメージの関係を理解する ⑫ 語彙の拡充が思考の精緻化に与える影響を考える									
授業計画 【第8回】	第8回 文と文法（文構造と言語活動） ⑬ 文の構造（主語・述語・修飾）を理解する ⑭ 文構造の理解が説明・記述の明確さに与える影響を考える									
授業計画 【第9回】	第9回 説明的文章①（構造理解） ⑮ 「読むこと」領域の構成を理解する ⑯ 情報の取り出し・整理（段落・構成）を理解する									
授業計画 【第10回】	第10回 説明的文章②（思考：比較・要約） ⑰ 比較・分類・要約などの思考操作を理解する ⑱ 要約を書く活動を通して、読むことと書くことの関連を理解する									

授業計画 【第11回】	第11回 説明的文章③（主体的関与） ⑲ 主体的に読むとは何かを考える ⑳ 自分の理解や考えを文章として表現し、交流する
授業計画 【第12回】	第12回 書くこと①（基盤的言語力としての書く） ㉑ 表記・語彙・文構造を活用した正確な記述を行う ㉒ 分かりやすい文章表現の条件を理解する
授業計画 【第13回】	第13回 書くこと②（文脈的言語力・主体的関与としての書く） ㉓ 目的・相手に応じた文章構成を考える ㉔ 推敲・改善を通して表現を高める
授業計画 【第14回】	第14回 文学的文章①（構造理解・解釈） ㉕ 登場人物・場面・叙述の把握を通して文脈的理解を行う ㉖ 解釈の多様性について理解し、読みを言語化する
授業計画 【第15回】	第15回 文学的文章②（主体的関与） ㉗ 読み手の経験と解釈の関係を考え、応答的に表現する ㉘ 説明的文章との比較を通して、国語科における資質・能力の構造を説明する
授業の到達目標	1. 【知識・技能の育成】 小学校国語科における教育内容（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化等）を体系的に理解することができる。 それらが言語活動の中でどのように働くかを説明することができる。 2. 【思考力・判断力・表現力等／汎用的技能の育成】 国語力を「基盤的言語力」「文脈的言語力」「主体的関与」の三要素から整理して捉えることができる。 読むこと・書くことなどの言語活動において知識を活用し、思考し、適切に表現することができる。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	授業時に提示する予習教材（教科書、資料等）を確認し、次回の授業テーマに関わる基本的な内容を把握する。その際、重要だと思う語句や概念を整理するとともに、「どのような言語活動と関わる内容か」という視点で簡単にメモを作成する。（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	授業で扱った内容について、知識及び技能の要点を整理するとともに、それらが言語活動（読むこと・書くこと等）の中でどのように働くかを自分の言葉でまとめる。あわせて、「学習の記録」に記した問いをもとに、関連する図書や資料を参照し、自身の考えを深める。（30分程度）
課題に対する フィードバック	小テスト、レポート等の課題については、評価後に全体への講評を行い、理解の到達状況や改善のポイントを共有する。 また、「学習の記録」に見られる代表的な問いや気づきを紹介し、授業内容との関連付けを図る。
評価方法・基準	1. 学習の記録（毎回の振り返り）（20%） 毎回の「学習の記録」において、授業内容の理解を踏まえ、自身の気づきや問いを記述し、学習を振り返ることができているかを評価する。特に、知識とその活用の関係を自分なりに整理しているかを重視する。 2. レポート（30%） 読むこと・書くことの言語活動を通して、知識を活用しながら自分の考えを形成し、適切に表現できているかを評価する。内容の適
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』文部科学省
参考書	必要に応じて適宜紹介する
備考	